

スミフェート粒剤

実際に使用する際は必ず商品ラベルをよく読み、記載内容に従ってお使いください。

農林水産省登録 第 21904 号
農薬の名称 スミフェート粒剤
農薬の種類 アセフェート粒剤

成分

- ・ アセフェート・・・5.0%
[O,S-ジメチル-N-アセチルホスホロアミドチオエート]
- ・ 鉱物質微粉等・・・95.0%

性状 類白色細粒

効果・薬害等の注意

- 定植時に植穴処理をする場合は、十分に薬剤と土壌を混和する（苗質により薬害）
- 降雨直後等土壌水分が極端に多い時の定植時植穴混和処理はさける（薬害）
- つまみ菜・間引き菜には使用しない。
- 使用量、使用時期、使用方法を守る。適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意

- 散布時は、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして、洗眼する。[マスク着用マーク]
- 眼に入らないように注意。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける（刺激性）
- 街路、公園などで使用する場合、関係者以外は作業現場に近づかせない。使用中及び使用後（最小限その当日）に散布区域に縄囲いや立て札をたて立ち入らせない。人畜に注意する。
- ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。[ハチ巣箱への使用禁止マーク]
- アブラバチなどを放飼する場合の使用はさける。
- 桑葉にかからないように注意する（蚕毒）[桑園付近使用禁止マーク]
- 使用量にあわせ秤量し、使いきる。
- 空袋は放置せず適切に処理する。

治療法・・・硫酸アトロピン製剤及び PAM 製剤の投与が有効（動物実験で報告）

魚毒性等・・・通常の使用方法では問題ない。

保管・・・密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

適用害虫と使用方法

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数制限を示す。

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期*	使用方法	総使用回数*	
					本剤	アセフェート剤
キャベツ	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	3~6 kg/10a (1~2g/株)	定植時	植穴処理	1回	2回(定植時までの 処理は1回、定植後 の散布は1回)
はくさい	アブラムシ類			株元散布		
ブロッコリー	ヨトウムシ	6 kg/10a (2g/株)				
だいこん	アオムシ コナガ アブラムシ類	3~4 kg/10a	は種前	作条散布		
かぶ	アブラムシ類	4 kg/10a	21日	株元散布		
なばな		6 kg/10a (2g/株)	定植時	土壌混和处理		
こまつな		3~6 kg/10a	は種前	作条散布後 土壌混和		
チンゲンサイ						
きゅうり なす	アブラムシ類 アザミウマ類 オンシツコナジラミ	3~6 kg/10a (1~2g/株)	定植時	作条散布 又は 植穴処理		
トマト	アブラムシ類 オンシツコナジラミ					
みずな		6 kg/10a		作条散布後 土壌混和		
ごぼう	アブラムシ類	3~6 kg/10a	75日	株元散布	2回(株元散布は 1回、散布は1回)	
ばれいしょ			植付時	作条散布	3回(植付時処理は 1回、植付後は2回)	
たばこ	ヨトウムシ アブラムシ類		移植前	作条散布後 土壌混和	2回	
花き類・観葉植 物(きく、トル コギキョウを 除く)	アブラムシ類	1~2g/株(但し、 9 kg/10a まで)	発生初期	株元散布	5回	5回
	アザミウマ類	2g/株(但し、 9 kg/10a まで)				
きく	マメハモグリバエ	6~9 kg/10a				
	アブラムシ類 アザミウマ類	1~2g/株(但し、 9 kg/10a まで)				
トルコ ギキョウ						
つつじ類	ツツジグンバイ	2g/株				
芝	スジキリヨトウ シバツトガ	10 kg/10a	全面散布			
	タマナヤガ	5~10 kg/10a				